

感染症管理センター

1. 概要

感染症管理センターは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職員と協同し、患者と医療従事者の双方を医療関連感染から守る活動を行っている院長直属の部門である。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）と感染対策チーム（ICT）があり、活動を行っている。近年問題となっている薬剤耐性菌（AMR）対策として、ASTが抗菌薬使用状況を定期的に監視し広域抗菌薬の適正使用化をすすめており、今年度より血液培養陽性患者の早期モニタリングを開始することができた。また、抗菌薬の供給不足により手術時使用抗菌薬の代替え薬について各科との調整を行った。ICTとしては、週1回定期的に院内の巡回ラウンドを行い院内感染事例の把握を行うとともに院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っている。

がん診療拠点病院として多くの手術を行っている当院は、手術部位感染（SSI）サーベイランスを実施し発生率の改善に取り組むことが課題であったが、JANISのSSI部門への登録を開始した。

COVID-19の流行が1月より始まり感染症指定医療機関として、確定患者の入院や疑似症患者の診察依頼を受けている。

（センター長 小山 典久）

（文責 伊藤 賀代子）

2. 活動報告

(1) 感染症発生動向調査

① 全数報告

(件)

類型	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
二類	結核	36	49	41
三類	コレラ	0	0	1
	腸管出血性大腸菌感染症	3	4	5
	パラチフス	0	0	0
四類	A型肝炎	1	2	1
	つつが虫病	1	0	0
	デング熱	1	0	1
	マラリア	0	0	0
	レジオネラ症	8	9	3
五類	アメーバ赤痢	0	0	0
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	1	3	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	1
	急性脳炎	2	0	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	2	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	1
	後天性免疫不全症候群	2	2	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	2	1
	侵襲性髄膜炎感染症	1	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	14	11	14
	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る）	3	3	1
	梅毒	5	2	1
	播種性クリプトコックス症	3	1	2
	破傷風	1	0	1
	百日咳	14	3	0
	風しん	0	2	0
	麻疹	0	3	1

② 小児科定点報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	RSウイルス	134	89	135
	咽頭結膜熱	1	0	1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	64	74
	感染性胃腸炎	867	903	830
	水痘	3	11	12
	手足口病	43	5	13
	伝染性紅斑	5	2	0
	突発性発疹	5	6	2
	百日咳	-	-	1
	ヘルパンギーナ	13	11	7
	流行性耳下腺炎	1	1	29

※百日咳は2018年1月1日より全数報告

③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	細菌性髄膜炎	3	1	4
	無菌性髄膜炎	0	1	1
	マイコプラズマ肺炎	2	0	5
	クラミジア肺炎	0	0	1
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	19	6	28
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	147	133	154
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	2

④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	インフルエンザ	377	1,083	893

⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	インフルエンザ（入院患者）	60	139	148

⑥職員の感染曝露

(件)

	2019年度	2018年度	2017年度
針刺し・切創（EPI-Net A）	67	41	60
皮膚・粘膜汚染（EPI-Net B）	16	12	11
院内結核曝露	8	7	5

⑦職員健康外来

(件)

	2019年度	2018年度	2017年度
延べ受診者数	93	49	88

※ 2017年9月末より院内職員の針刺し事故等被災者の受診基準一部変更